

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

高い志を持ち、夢の実現に向けて必要な力を身に付けるとともに、考え、行動し、社会に貢献する人材を育成する学校をめざします。

- 1 高い志を持ち、自ら行動し、挑戦を続ける力を育みます。
- 2 未来を切り拓き、将来の夢の実現に向けて必要となる学力と考える力を育みます。
- 3 他者を思いやる心を大切にし、地域での奉仕活動を通じて社会に貢献する力を育みます。

2 中期的目標

1 将来の夢の実現をめざした確かな学力の育成とキャリア教育の実践

(1) 「わかる授業・充実した授業」をめざした授業改善に取り組む。

授業アンケートの活用、授業見学、研修等により、授業改善や工夫を行い、授業力の向上をめざす。

(2) 自学自習力を育む。

家庭学習（授業外学習）に取り組む力の育成とともに、読書習慣の定着並びに資格取得に向けた取組みを行う。

(3) 3年間で有効活用したキャリア教育を実践する。

1年次から進路情報の提供、進路相談、進路説明会等を実施し、キャリア教育の強化を図る。

※授業満足度 平成26年度73%→平成29年度80%

※家庭学習（授業外学習）時間/日 平成26年度40分→平成29年度55分

※難関・中堅私立大学合格者数 平成26年度23人→平成29年度35人

※学校教育自己診断（生徒）における進路指導項目の肯定率 平成26年度73%→平成29年度76%

2 規範意識を高め、社会性、公共性を兼ね備えた人材の育成

(1) 遅刻者数を減少させる取組みを全校的に実施する。

入学当初からの生徒指導や遅刻者に対する早期の特別指導を行い、保護者の協力も得ながら、時間を守る意識を育む。

(2) 学校・地域における活動を通じて生徒の主体性を育む。

学校行事、部活動、奉仕活動等のさまざまな活動を通じて、生徒の主体性の育みをめざす。

※生指遅刻者数 平成26年度2353人→平成29年度1500人

※部活動加入率 平成26年度78%→平成29年度83%

3 普通科専門コース設置に向けた体制整備、広報活動・情報提供の推進

(1) 普通科専門コース設置に向けた体制整備を行う。

専門コース設置に向けて、教育課程作成及び科目内容等の検討を行うとともに、大学や外部機関との連携を推進する。

(2) 広報活動・情報提供の推進を図る。

学校説明会や中学校訪問の広報活動、ホームページ等による情報提供の推進を図る。

※ホームページ更新回数 平成26年度25回→平成29年度40回

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、わかる授業・充実した授業をめざした授業改善を目標に取り組んだ。教員「学習形態や学習指導方法の工夫・改善を行っている」に肯定的回答が前年度から64%→88%と増加した。 ・「テストだけでなくいろいろな側面から学習の評価を行っている」に肯定的回答は教員80%→88%と増加した。生徒には、今年度、別のアンケートで実施したが、肯定的回答が89%となりほぼ同じ結果であった。 ・保護者「子どもは家庭でよく学習している」に肯定的回答が、今年度40%であり、家庭学習が不足していることがわかる。各学年・教科で情報共有しながら一定量の宿題・課題を出すなど、家庭学習（授業外学習）をやらなければならない状態を作る必要がある。 <p>【キャリア教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育については、1年生から3年計画でさまざまな指導を行っている。この指導についての肯定的回答は生徒73%→78%、保護者73%→82%、教員76%→87%となり、それぞれ増加した。今後とも一層工夫しながら、生徒の夢の実現に貢献できる教育を行っていききたい。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は教育情報について提供の努力をしている」に肯定的回答が保護者77%→85%と増加した。情報の提供は印刷物で配付する以外にも、今年度から携帯連絡網を用いて学年毎に行うシステムを開始し、登録者が362人→664人と大幅に増加した。 ・保護者「本校の教育は全般的に満足できる」に肯定的回答は77%であった。今後とも一層の充実に努め、賛同を得ることができるように取り組むたい。 	<p>○第1回（7/8）学校経営計画及び取組みの概要、専門コース設置について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英検・漢検について、地元中学校では市から中学生への受験料補助を利用し、英検3級の受験率70%をめざした指導をしている。→英検・漢検の資格取得を目標に講習や授業で取り組む。まず1年生で漢検の全員受験をめざす。 ・専門コース設置校に変わること難易度が上がると中学生は感じている。在校生のモチベーションが下がらないように工夫をお願いしたい。 ・地域での奉仕活動や交流活動の具体的な内容は何か。→生徒による地域の清掃、SGS（スクールガードサポーター、挨拶運動）、「阜杯」として部活動における中学生との交流、地域で行われる行事への参加などである。 <p>○第2回（11/9）取組み状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導における今年度の取組みの工夫は何か。→遅刻者数減少をめざして、遅刻防止週間を新設し、放課後、遅刻者に課題学習へ取り組ませた。 ・学校をさらに良くしようという意識は、授業の中でも生徒に伝えていくことができる。 ・教職員に対して、全場面に対しての行動マニュアルの作成は困難であるが、学校としての行動指針を設定しておけば皆の動きの統一化が図れる。 <p>○第3回（1/22）学校経営計画の自己評価及び学校教育自己診断結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用率が低い。スマホ読書の影響もあるか。図書購入予算を削減して、図書館利用率増をめざすアイデアに予算を回してはどうか。 ・自己評価で△となっている項目は、生徒の主体的な行動に関わっている部分が多い。生徒自ら考えて取り組む力をどう育んでいくかが重要である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 将来の夢の実現をめざした確かな学力の育成とキャリア教育の実践	(1) 「わかる授業・充実した授業」をめざした授業改善 ア 授業アンケートの活用、授業見学、研修の実施 イ ICTを活用する授業の取組み	ア・授業アンケートの活用・分析とともに、何時でも誰でも予告なく授業見学をする体制により授業研究の促進に取り組む。 ・校内研修や他校の公開研究授業により授業力の向上に努める。 イ・ICTの環境整備を図り、ICTを効果的に活用する授業に取り組む教員を増やす。	ア・授業満足度 76% (H26 ; 73%) イ・ICTを活用する授業を実践した教員の割合 46% (H26 ; 43%)	ア・生徒授業アンケートの授業満足度は 80%であった。次年度は授業見学を一層推進すると共に、各教科・科目の授業達成目標を設定する取組みなども促していきたい。(◎) イ・ICT活用授業を実践した教員の割合は 52%。ICTの環境整備を進めた。タブレットを先行的に購入したが、次年度は生徒用も整備し、新しい授業形態への取組みも行う。(◎)
	(2) 自学自習力を育む ウ 家庭学習(授業外学習)に取り組む力の育成 エ 読書習慣の定着に向けた取組み オ 資格取得に向けた取組み	ウ・生徒が家庭学習(授業外学習)に取り組むように、教科間で調整し、宿題・課題を効果的に課す。 ・講習・補習を行い、学力の補強を図る。 エ・読書習慣の定着に向けた取組みを行うとともに、図書館を利用する生徒の割合を上げる。 オ・英検、漢検等の資格取得をめざして講習や授業での取組みを行う。	ウ・家庭学習(授業外学習) 45分(H26 ; 40分) ・講習・補習における参加者を前年度比 10%増加(H26 ; 190人) エ・図書館利用率 18% (H26 ; 15%) オ・英検・漢検受験者数を前年度比 10%増加(H26 ; 91人)	ウ・家庭学習(授業外学習)は 40分であった。次年度は学年・教科で情報共有しながら一定量の課題を出すなど工夫の必要がある。(△) ・平日・長期休暇・土曜日の積極的実施で講習・補習の参加者は 226%増の 620人(◎) エ・図書館利用率は 11%であった。原作本、雑誌、資格取得本など幅広く購入を行ってきたが「時間がない」「読書をしない」等の理由で減少となった。次年度は利用率増をめざすアイデアに予算を回すなど工夫したい。(△) オ・246%増加の 315人であった。合格した次の級をめざすよう次年度働きかけたい。(◎)
	(3) 3年間を有効に活用したキャリア教育の実践	カ・1年次から進路情報の提供、進路相談、進路説明会等を実施し、キャリア教育の強化を図る。	カ・学校教育自己診断(生徒)における進路指導項目の肯定率 76% (H26 ; 73%)	カ・学校教育自己診断(生徒)における進路指導項目の肯定率は 78%であった。次年度は目標をやや上方修正して取り組みたい。(◎)
2 規範意識を高め、社会性・公共性を兼ね備えた人材の育成	(1) 遅刻者数を減少させる全校的な取組み ア 遅刻指導の工夫と取組み イ 保護者と連携した交通安全指導の取組み	ア・遅刻者数を減らすため、全校的に各クラスの状態を把握・意識して取組みを行う。 ・スムーズに授業開始ができるように、全教員による「ベル着指導」を徹底する。 イ・PTA生活指導委員会の協力のもと、保護者と連携した交通安全指導を登下校時にし、併せて保護者との意見交換会を開催して情報収集を行う。	ア・生指遅刻者数を前年度比 20%減少(H26 ; 2353人) イ・合同交通安全指導を実施し、併せて保護者との意見交換会を年3回実施(H26 ; 3回)	ア・生指遅刻者数は 1653人で 30%減少。今年度、学年別遅刻防止強化週間の新設や放課後の遅刻指導担当者増、入室許可書の改訂などの取組みをおこなった。次年度はこれらの改善も行いながら一層の取組みを促したい。(◎) イ・保護者との意見交換会を3回開催した。交通マナー・挨拶の浸透、課題が報告された。(○)
	(2) 学校・地域における活動を通じた生徒の主体性の育み ウ 体育祭や文化祭等の学校行事の充実 エ 部活動の活性化 オ 地域での奉仕活動や交流活動の推進	ウ・体育祭や文化祭等の行事を魅力的なものとするために、前年度の総括をもとに検討し、生徒の参加意欲を高め、主体性を育む工夫を行う。 エ・部活動加入を奨励するとともに、加入者に校内で活躍の場をつくりリーダーシップを発揮させるなど、様々な機会を通じて生徒の主体性の育みと部活動活性化を図る。 ・中学校との合同練習等で本校の部員の活躍が伝わり、将来的に部活動加入に結び付くような取組みを行う。 オ・地域の清掃、SGS(スクールガードサポーター)等の奉仕活動を推進する。 ・地域との交流活動に積極的に参加する。	ウ・2大行事(体育祭、文化祭)における生徒アンケートの満足度 89% (H26 ; 88%) エ・部活動加入率 80% (H26 ; 78%) オ・地域での奉仕活動や交流活動への参加者数 250人 (H27 から測定)	ウ・2大行事の満足度は 87%。アンケート分析による改善とともに、規範意識を高く保つ指導の中でも、納得し、満足するように生徒と十分に対話しながらの取組みが必要。(△) エ・部活動加入率は 73%であった。次年度は新入生への部活動勧誘に一層取り組むとともに、現部員が継続していくようにフォローしていく必要がある。(△) ・バレーボール部、バスケットボール部で地元中学校参加の阜杯を行うとともに、複数の部で中学生を招いて合同練習を行った。 オ・地域の清掃、SGSへの参加者数は延 480人であった。次年度も継続し、生徒の主体性を育む取組みを推進していきたい。(◎)
3 普通科専門コース設置に向けた体制整備、広報活動・情報提供の推進	(1) 専門コース設置に向けた体制整備 ア 教育課程作成及び科目内容の検討 イ 大学や外部機関との連携	ア・専門コース「英語アドバンスト」、「理数アドバンスト」の新規設置学年である平成 28年度入学生用の教育課程及び主な内容の検討を将来構想委員会が中心に行う。 イ・専門コース設置に向けて、海外からの留学生等を活用した生徒交流(学内留学)等の新企画をまとめる。	ア・新教育課程及び主な内容の検討・完成を7月までに行う。 イ・生徒交流(学内留学)等の新企画を1個まとめる。	ア・積極的に教員の参加が得られて、新組織「専門コースチーム」により教育課程・内容だけでなく幅広く進めることができた。(◎) イ・海外からの留学生をインターンシップ的に1ヶ月間、毎日本校の英語活動に協力してもらった。次年度に再度行うこと及び別企画を調整中である。(◎)
	(2) 広報活動・情報提供の推進 ウ 学校説明会や中学校訪問の広報活動の推進 エ ホームページ等による情報提供の推進	ウ・専門コース設置に向けて新パンフレットを作成し、学校説明会や中学校訪問の広報活動の推進を図る。 エ・ホームページ等により在校生、受験生、保護者等への情報提供を頻度、内容ともに積極的に行う。	ウ・新パンフレットを7月までに作成する。 ・学校説明会における参加者数 650人 (H26 ; 624人) エ・ホームページ更新回数 20%増(H26 ; 25回) ・携帯連絡網の登録者数前年度比 10%増(H26 ; 362人)	ウ・計画より速やかに進み、6月合同説明会までに新パンフレット、クリアフォルダーなどを完成させ、広報活動を推進できた。(◎) ・参加者は 432人であった。申込方法の変更で手間がかかるようになったため、次年度は気軽に参加できる方法にしたい。(△) エ・ホームページ更新回数は 56%増加の 39回であった。記事担当者を増員して取り組んだ。次年度も回数・内容を充実させたい。(◎) ・登録者数は 83%増加の 664人。年度末でリセットされるため、再度登録してもらえよう魅力ある情報提供をしていきたい。(◎)